2025年第50週の報告です。

今週も**インフルエンザ**が全国総数・京都府（総数）ともに警報レベルです。保健所別では山城南以外のすべての保健所で警報レベルが続いています。

咽頭結膜熱は山城北で、**伝染性紅斑**は中丹東で警報レベルが継続しています。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は中丹東で9.0件の報告があり新たに警報レベルになりました。**水痘**は南丹では0.5件まで減少し警報解除となりましたが、中丹東では今週も注意報レベルとなっています。

全数把握対象疾患は、**結核**が 7 件、**レジオネラ症**と**侵襲性髄膜炎菌感染症**がそれぞれ 1 件、**侵襲性インフルエンザ菌感染症**と**侵襲性肺炎球菌感染症**がそれぞれ 2 件、**梅毒**と**百日咳**がそれぞれ3件報告されました。

12 月は京都府のエイズ予防月間ということで、前回、前々回に続いて性感染症についてコメントします。

京都府内の月別性感染症報告件数の推移を見ますと、直近数か月は、特に性器クラミジア感染症と淋菌感染症の増加が著しく、京都府の感染症情報センターで公開している2019年1月以降のデータでは、過去最高水準に達しています。

性器クラミジア感染症は、クラミジア・トラコマティスという細菌の感染症であり、淋菌感染症は、その名のとおり淋菌による感染症です。いずれも男性では主に尿道炎として発症し、排尿時の痛みや尿道不快感、膿などが見られます。一般的には、淋菌の方がクラミジアより強い症状を呈すると言われています。一方、女性では主に子宮頚管炎として発症し、おりものの増加や腹痛を自覚することがありますが、どちらの疾患でも症状がごく軽微～無症状の場合があり、長期に渡り感染に気が付かないこともあります。そして、感染が長引くと、周囲の臓器などにも感染が広がり、不妊の原因になったり、激しい腹痛や発熱を引き起こしたりすることがあります。

性器クラミジア感染症も淋菌感染症も、現状、有効なワクチンはなく、一度感染し治癒しても、何度も再感染します。予防としては、性行為においてだけでなく、性交類似行為（オーラルセックス等）においても、コンドームを着用することが挙げられます。また、症状を自覚した場合は、放置せずに医療機関を受診し、検査により感染が確認された場合は、きちんと治療（抗菌薬の投与）を受けることが重要です。

なお、性器クラミジア感染症については、京都府の各保健所等でも無料・匿名の検査・相談（予約制）を実施しています。感染が心配な場合はご活用ください。（淋菌感染症検査については、現在、京都市保健所でのみ実施されています。）

○府内保健所等における性感染症検査：
（検査項目は、HIV、性器クラミジア感染症、B型肝炎、C型肝炎、梅毒〈要予約〉）